

平衡と心理的安全性～変化と不確実性に対する組織の“静かな条件”を探る～」と題して近畿大学教授の辰巳陽一先生にご講演いただきました。

一般演題では、医療安全、医療の質など17のカテゴリーを設け、163題の発表があり、活発な意見交換ができました。また、特別企画としてミニシンポジウム「激動の時代の病院運営」として4施設の病院長による発表セッションを設け、熱心な討議がなされました。

開催にあたり多大なご支援とご協力を賜りました関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

第25回長崎県支部学術集会

学術集会会長：長崎みなとメディカルセンター

副院長 坂本一郎

2026年2月21日(土)、長崎県美術館において、日本医療マネジメント学会第25回長崎県支部学術集会を開催しました。テーマは「医療DXとタスクシェアが切り拓く未来～患者満足と働きやすい環境の両立を求めて～」とし、「患者満足度の向上」と「働きやすい環境の整備」という二つの重要な課題に焦点を当てました。一見相反するよう見えるこれらの課題について、医療DXおよびタスクシェアの導入によりいかに両立を図るかを、多職種の視点から議論する機会となりました。一般演題は32題が発表され、「タスクシェア」「医療DX・情報セキュリティ」に加え、「多職種連携・地域医療」「看護・人材育成」「医療安全」「業務改善」などの分野において、多職種による実践的な取り組みが紹介され、活発な意見交換が行われました。特別講演では、医療サイバーセキュリティ協議会の松山征嗣先生をお招きし、「医療圏を守るサイバー防災：自助・公助・共助による医療継続体制の構築」と題してご講演いただきました。事例を交えながら、サイバーインシデント発生時の初動対応と復旧の要点についてご解説いただきました。当日は約100名の参加者を迎え、盛会のうちに学術集会を終了することができました。本学術集会の開催にあたり、ご支援・ご協力を賜りました関係各位に心より御礼申し上げます。

第18回宮崎県支部学術集会

学術集会会長：JCHO宮崎江南病院院長

白尾一定

2026年2月28日宮崎県看護等研修センターにて、

第18回日本医療マネジメント学会宮崎県支部学術集会を開催しました。参加者は108名でした。テーマは、「医療安全と働きやすい職場環境を目指して」とさせていただきます。一般演題は、21題で、クリティカルパス展示は5題でした。特別講演は社会医療法人関愛会診療顧問の高倉 健先生に「職場の幸せ力をアップ!」という演題で、ご講演いただきました。ノンテクニカルスキル、Team STEPPS、アーサティブコミュニケーション、EQを高める方向やPEP TALKなど心理的安全性を高める方法を学びました。パネルディスカッションでは、宮崎大学、宮崎県立病院、宮崎県看護協会、JCHO宮崎江南病院からも「医療安全における問題点と対策」として発表して頂き、論議しました。一般演題の発表についても活発な議論がなされました。皆様のご参加ありがとうございました。



会場風景

第24回千葉県支部学術集会

学術集会会長：船橋市立医療センター院長

茂木健司

2026年3月7日(土)に船橋市民文化創造館(きららホール)において第24回日本医療マネジメント学会千葉県支部学術集会を開催し千葉県内の病院等から約100名の参加をいただきました。テーマは「病院スタッフを守る～院内で生じる事柄から職員をまもり、支える取組～」です。そのテーマに沿い特別講演1として日本医療安全調査機構常務理事の木村壯介先生に「医療の提供に伴うinformed consent、及び予期せぬ結果への対応」と題した講演をいただきました。特別講演2として患者・家族と医療をつなぐNPO法人架け橋理事長 豊田郁子先生に「医療事故に遭遇した患者・家族と医療者に必要な事故対応と精神的支援－患者遺族と医療対話推進者の経験から－」と題した講演をいただきました。

応募演題では計14題の発表をいただき、いずれの演題も活発なディスカッションが行われ有意義な会